



## 横浜銀行 ニューヨーク駐在員事務所

週間トピックス Vol. 477 (2018. 8. 3)

<今週のトピックス>

### ニューヨーク市のクラフトビール

ニューヨーク市では今、クラフトビールブリュワリーのブームが起きています。ニューヨーク市内に約 40 箇所あり、5 年間で 5 倍に増えています。偶然ですが、東京のクラフトビールブリュワリーも約 40 箇所（神奈川は約 25 箇所）のようです。東京のブリュワリーには小規模な「マイクロブリュワリー」や更に小さな「ナノブリュワリー」が多いようですが、ニューヨーク市では、ブルックリンやクイーンズの倉庫や工場跡地を活用した比較的規模の大きなブリュワリーも生まれています。

ブームはニューヨーク市を越えてニューヨーク州全体に広がっており、許認可権を持つニューヨーク州では、認可手続きの効率化や税制面での優遇などをおこなうことで、州全体で 5 年間で 300 箇所近くのブリュワリーが新設されています。

歴史的に、ビール市場は新興国で強い伸びを示す傾向がありますが、これは政府にとっては比較的安定した税源になるという観点があるようです。先日、ニューヨーク市の地下鉄某駅の天井が崩落する事故があったのですが、今年 9 月に知事選挙の予備選を控える現職知事が、会見で地下鉄設備の老朽化について質問されたところ、「安全は大事だが誰がコスト負担をするのか」と発言して対抗馬（アメリカの人気 TV シリーズ「セックス・アンド・ザ・シティ」出演の女優）から攻撃されていました。ニューヨークですら財政は厳しいようですので、税収の観点からも、州政府にとってクラフトビールブームは魅力的なのかもしれません。

日本では、ビールの販売は「景気」「天気」「人気」に左右されると言われているようですが、ニューヨークの景気は良く、天気はカラッと暑く、人気面ではこだわりのミレニアル世代（概ね 1980～90 年代生まれ）が高品質・地元価格のクラフトビール需要を牽引しており、ブームはまだまだ続きそうです。

（出所：Wall Street Journal）

- ・本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
- ・本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
- ・本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
- ・本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。